


パネルディスカッション


テーマ：「もったいない」が地球を救う

小池 百合子氏




「もったいないの心だけではなく、省エネでできるだけ化石燃料を使わないような技術の開発を進めるとともに、環境税導入などの制度を整えていかなければならない。心(もったいない)・技(技術)・体(制度)がそろえば、日本はさらなる環境立国へと進む」と述べた。また、「子どもだけでなく大人にも環境教育が大切。リーダーを育てれば、さらに行動につながるのでは」と提言した。

ワンガリ・マータイ博士




環境保全のキーワードであるリデュース(排出抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の三つのRに加え、植物や緑を尊重する「リスペクト」の重要性を強調。「人間は環境をきれいにしてくれる樹木を必要としている。人は植物、緑なくして生きることができないが、樹木は人がいなくても生きていける。樹木に感謝しなければならない」と訴えると、会場から大きな拍手がわき起こった。

坂東 眞理子氏




「目先の利益を追う短期的な考えは賢くない」と指摘。「ものを十分使い切ることが大事。長く付き合い、持続させることは、かえって大きなリターンを生む。ものの命を最後まで慈しむ、使い切る思想が大切」と訴えた。

佐藤 栄一



「もったいない精神」に基づく様々な行政の取組を紹介。「もったいない運動を更に推し進めていきたい」と話し、「もったいない運動の神髄は平和。命を大切にすることにつながる」と主張した。

幸田 シャーミン氏



「『もったいない』は、尊敬する心、感謝する心など本当に大切なメッセージが込められたすばらしい言葉であり、誇りを持って広げていかなくてはならない言葉である」と結んだ。

事例発表会

【株島津製作所】(京都府)

平成18年度地球温暖化防止活動において「環境大臣表彰」受賞

女性中心の環境プロジェクトチーム「え〜こクラブ」の活動により、環境保全のノウハウを外部支援、特に小中学校の環境活動支援に広がってきた。その活動から生まれた環境教育支援ツール「え〜この京路地(みやころじ)すごろく」などで遊びながら「もったいない」を学ぶ。



活動を発表する茨城県立土浦湖北高校の生徒たち

【NPO法人スペースふう】(山梨県)

平成19年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰において「環境大臣賞」受賞

2003年からリユース食器のレンタル事業を起す。2004年からは、サッカーJリーグ「ヴァンフォーレ甲府」のホームゲームにもリユースカップを導入。いまでは全国に7ヶ所の拠点事業所を置き、それらをつなぐ「リユース食器ふうネット」を2006年に設立した。

【岡山市】

岡山市は、様々な組織が連携して、「持続可能な開発のための教育」(ESD)に取り組んでいる。地域全体の多様な組織のネットワーク化や指導者育成等に取り組んだ結果、現在の参加組織は約100組織に拡大。現在、国連大学から「ESDの地域の拠点」として認定されている。

【茨城県立土浦湖北高等学校】

平成19年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰において「文部科学大臣賞」受賞

美化活動を通じて、地球温暖化の原因になるごみの減量を行い、環境保全に努めたいと考え、校内や地域のごみ処理状況の実態、アンケート調査等から、一人ひとりの意識を改革すれば、ごみを1/10に減らすことができると確信し、研究実践を行う。

もったいない全国大会実行委員会 事務局
 栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号(宇都宮市環境部環境政策課内)
 TEL 028-632-2417 FAX 028-632-3316 E-mail mottainai@city.utsunomiya.tochigi.jp
 発行 2008年(平成20年)6月



第2回 もったいない全国大会

「もったいない」が地球を救う in うつのみや
 人・もの・地球を大切に「こころ」を育もう!



ワンガリ・マータイ博士 小池百合子氏 坂東眞理子氏 幸田シャーミン氏

「第2回もったいない全国大会」大会宣言

今、地球が泣いています。
 豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
 ヒマラヤなどでの氷河の後退
 砂漠化の進行
 動植物絶滅の危機など
 温暖化が進んでいます。
 化石燃料の大量消費や森林破壊など
 私たち人間の活動が地球を傷つけているのです。



大会宣言文を読み上げる宇都宮市立西小学校5・6年生のみなさん

今、平和が脅かされています。
 繰り返される戦争やテロ、凶悪犯罪
 今このときも、世界のどこかで多くの尊い命が失われています。
 人を思いやるところが失われているのです。

未来にこの美しい地球を残していくために・・・
 そして、私たちが平和に生きていくために・・・

私たちは、もったいないの精神のもと
 未来を担う子どもたちを育て、平和な世界を築いていきます。
 緑豊かな大地をつくり、美しい地球を未来へつなぎます。

そして、私たち日本人が古くから持っている
 この素晴らしい「MOTTAINAI(もったいない)」を
 この大会から全国へ、世界へ広げていくことを
 今ここに宣言します。

平成20年6月2日
 第2回もったいない全国大会

もったいない全国大会実行委員会 会長 宇都宮市長 佐藤栄一



宇都宮市で、平成20年6月2日、3日の2日間にわたり「第2回もったいない全国大会」を開催しました。参加者は延べ約4,000人に上り、盛況のうちに終了することができました。出演者それぞれの熱い思いが皆様にしっかりと受け止められ、人・もの・地球を大切に作る「もったいないの心」を宇都宮から全国へ、世界へ発信することができたものと考えております。これもひとえに、皆様の御支援の賜物と御礼申し上げます。

この大会の「速報版」をここに作成しましたので、「もったいない運動」の更なる推進に御活用いただければ幸いです。

今後とも、皆様の更なる御協力をお願いいたします。



満席になったメインホール会場

6月2日(月)

記念植樹会 宇都宮市立中央小学校 11:00~11:40

ワンガリ・マータイ博士と児童・生徒で記念植樹会

マータイ博士：「一人一人、『もったいない』のために何ができるかを考え、少しでも地球のためになることをしてください。」



記念植樹会
子どもたちと植樹するワンガリ・マータイ博士

全体会 栃木県総合文化センター 13:00~17:00

・アトラクション

栃木県立宇都宮中央女子高等学校合唱部による合唱

・開会 主催者あいさつ
来賓あいさつ

・ツバル国へのバス寄贈報告

・基調講演 ノーベル平和賞受賞者 ケニア共和国元環境副大臣
ワンガリ・マータイ博士

・パネルディスカッション

パネリスト ワンガリ・マータイ博士

小池百合子氏(衆議院議員,元環境大臣)

坂東眞理子氏(昭和女子大学学長,「女性の品格」著者)

佐藤栄一(宇都宮市長)

コーディネーター 幸田シャーミン氏(国際連合広報センター所長)



アトラクション

交流会 宇都宮東武ホテルグランデ(4階松柏) 18:00~19:30

- ・宇都宮の名物、餃子、カクテル、ジャズを楽しみながら、「もったいない」についての情報交換をしました。
- ・約370人が集まり、互いの取組について紹介し合うなど、交流を深めました。



約370人で賑わった交流会

6月3日(火)

事例発表会 栃木県総合文化センター 9:30~12:30

- ・株式会社 島津製作所
- ・NPO法人スペースふう
- ・岡山市
- ・茨城県立土浦湖北高等学校



事例発表会

基調講演

講師：ノーベル平和賞受賞者、ケニア共和国元環境副大臣 ワンガリ・マータイ博士

演題：美しい地球を未来の子どもたちへ



風呂敷を手にしながら話すマータイ博士

「もったいない」という言葉に出会って感動

05年に毎日新聞の招きで来日した際に、「もったいない」という言葉に出会ったエピソードを披露。「『もったいない』は資源を無駄にしないよう、思いやりや感謝の気持ちを持つという意味。偉大な概念を網羅していてすばらしいと感動した」と振り返った。

7月に開催される北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)で、G8の首相がただ単に3つのR、すなわちリデュース(排出抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)だけではなく、もったいないというすばらしい概念に気が付くことを期待している。

限りある資源を守ることが大切

マータイ博士は、主に植林活動を通じてもったいないを広めている。「温暖化は人間活動による可能性がかなり高い」との科学者たちによる発表を挙げ、「我々人間が温暖化を止めていかねばならない。炭素を吸い、酸素を吐き出す森は地球の肺だ。森林を守ることが極めて重要」と訴えた。

また、アフリカをはじめ、世界各地で起きている紛争について「水、土地、森林など資源を巡る争いだ。平和は環境を破壊しては達成し得ない。公平な形で限りある資源を共有し合わなければ、ますます紛争が増えてしまう」と指摘した。

我々のできることをやっぺいこう

最後に、マータイ博士がとても気に入っている「ハチドリの一ひとずく」の話があった。これは森林が火事になった話。本当にひどい火事で、動物たちは恐怖と悲しみ、絶望感で燃える森林を見ていたが、ハチドリだけはいつたりきたり口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んで火の上には落ちていったのである。ほかの動物たちはそれを見て、「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑っていたが、ハチドリは、こう答えた。「私は、私にできることをしているだけ」と。「私たちの存在、力はあまりにも小さすぎると思うかもしれないが、我々全員がハチドリになって、我々のできることをやっぺいこう」と結んだ。

ツバル国にスクールバス

温暖化による海水面の上昇で水没の危機に直面している南太平洋の島国ツバルにスクールバスを贈った(社)宇都宮青年会議所の石下光良前理事長と宇都宮未来クラブの石川那知さんが活動報告をした。



(社)宇都宮青年会議所は、昨年8月の「第1回もったいない全国大会」をきっかけに、ツバルの子どもたちにスクールバスを贈ろうと募金活動を実施し、約240万円を集め中古のバス購入費や輸送費に充てた。宇都宮未来クラブは、「みんなの手でツバルを守ろう」というメッセージを込めてそのバスにペイントを施した。バスを贈呈するためにツバルを訪問した石下前理事長は、イエレミヤ首相と子どもたちから歓迎を受けた。

石下前理事長は、砂浜が後退している現地の状況などに触れ、「もったいない精神でこの環境を考えないといけない」と述べた。